

令和3年度第1回春日井市観光・にぎわい創出推進会議議事録

1 開催日時 令和3年8月5日(木) 午前10時00分～午後0時10分

2 開催場所 春日井市役所南館4階 第3委員会室

3 出席者

- | | |
|--------------------------------|--------|
| 【会長】名古屋国際工科専門職大学工科学部 教授 | 佐藤 久美 |
| 【副会長】中部大学経営情報学部経営情報学科 教授 | 趙 偉 |
| 【委員】中部圏インバウンドセールスプロジェクト 事務局長 | 赤崎 真紀子 |
| 東海旅客鉄道株式会社春日井駅 駅長 | 藤本 一郎 |
| 名鉄観光サービス株式会社商品事業本部商品開発部 副部長 | 福井 佳代 |
| 株式会社新東通信クリエイティブ本部 プロモーションプランナー | 水野 香代 |
| 春日井商工会議所 副会頭 | 岡部 清次郎 |
| 一般社団法人春日井市観光コンベンション協会 会長 | 水野 隆 |
| 公募委員 | 水谷 忠成 |
| 公募委員 | 田本 雅子 |
| 【オブザーバー】 | |
| 一般社団法人愛知県観光協会 専務理事兼事務局長 | 榊原 仁 |
| 【事務局】産業部 部長 | 足立 憲昭 |
| 経済振興課 課長 | 藤井 隆史 |
| 課長補佐 | 鈴木 公博 |
| 主査 | 柴田 知宏 |
| 主事 | 長谷川 裕子 |
| 【計画策定支援業務受託事業者】 | |
| 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 (MURC) | |
| 政策研究事業本部名古屋本部研究開発部 上席主任研究員 | 田中 三文 |
| 主任研究員 | 小森 清志 |
| 【傍聴人】 1名 | |

4 議題

- (1) 春日井市観光・にぎわい創出基本計画の策定について
- (2) 春日井市の観光の現状（データ分析）
- (3) 今後の調査内容について
 - ① 市民（来訪者）アンケート
 - ② Webアンケート
 - ③ 観光施設等ヒアリング

5 会議資料

次第・委員一覧・座席表

資料1 春日井市附属機関設置条例

資料2 春日井市観光・にぎわい創出推進会議規則

資料3 会議の公開及び議事録の作成方法

資料4 春日井市観光・にぎわい創出基本計画の策定について

資料5 春日井市の観光の現状

資料6 今後の調査内容

参考資料

春日井市の概要

観光ガイドブック「見つける春日井」

6 議事内容

議事に先立ち、委嘱状の交付、市長挨拶、会長と副会長の選任、議事運営事項の確認等を行った。

- (1) 春日井市観光・にぎわい創出基本計画の策定について

【事務局藤井】 (資料4に基づき説明)

- (2) 春日井市の観光の現状（データ分析）

【MURC田中】 (資料5に基づき説明)

【佐藤会長】 資料5のデータから何が言えるか。

【MURC田中】 春日井市民の春日井市への愛着を感じた。休日を地元で過ごす傾向が見受けられ、生活に関する満足度が高いと捉えている。

観光の観点でいえば、高速道路や鉄道など交通網が充実しており、来訪しやすい環境であるため市外からの引き込みが期待できる。

(3) 今後の調査内容について

- ① 市民（来訪者）アンケート
- ② Webアンケート
- ③ 観光施設等ヒアリング

【MURC田中】（資料6に基づき説明）

(4) 意見交換

【赤崎委員】

春日井市に「観光」のイメージを持っていないのが正直なところであるが、愛岐トンネル群は産業遺産としての価値が非常に高いと思っている。私は経済産業省の産業遺産委員会のメンバーとして、愛岐トンネル群をPRしている市民団体の方々とも10年以上付き合いがあり、全国廃線跡サミットではコーディネーターを務めた。

市民団体が中心となって地権者から土地を購入し、保存や普及啓発に取り組んでいるところを高く評価している。産業観光ツアーでも愛岐トンネル群に案内しており、この地の活用は非常に重要だと思う。気になっているのは、全国廃線跡サミットの際、多治見市は来ていたが春日井市は来ていなかったということ。市民団体と行政が連携していくことが重要だと思う。

愛知県の愛知ブランド認定員として長年従事している。サボテンは、シビックプライド、シティブランドとしての価値があると思うが、活用のためには商品の開発、体験型のプログラムが必要である。商品開発に市が支援をしてほしい。広めていくにはコラボレーションすることが重要で、異業種・他業種とのコラボレーション、近隣エリアとのコラボレーションを考えると良い。市役所は市の境で考えがちだが、春日井市近隣を含めた一体での取組を期待したい。

サボテンを食べる機会や見る機会を、会議の場で体験できると良いと思う。市内のツアーを企画することなどについても委員として関わりたい。

【事務局藤井】

愛岐トンネルの観光資源としての価値は高いと捉えている。現状、推進団体との関係上、十分な連携が取れてはいない。愛岐トンネルの位置付けなど良い関係を構築できると良いと考えている。

【佐藤会長】

半日のツアー後に午後会議実施ということも検討してほしい。

【藤本委員】

7月に赴任したばかりでまだまだ理解が及んでいないところがあるが、11月のさわやかウォーキングには平時は1,500人から2,000人の参加があるところ、一昨年の2月に神領車両区で開催した新型車両の公開イベントには7,000人の集客があり、イベントをルートに加えたさわやかウォーキングに

は4,500人の参加があったと聞いている。さわやかウォーキング、サボテンなどで春日井市を体感してほしい。

【福井委員】 観光庁の「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」の補助採択を受けて、春日井市のサボテンをテーマとした、イベント開催、土産品開発、オンラインツアーなどを、今年度、春日井市観光コンベンション協会を実施主体とし、名鉄グループも運営に参加し、進めている。

若い女性に美容の面でもサボテンに興味を持ってもらえると良いと思っ
ている。サボテンと言えば南国にあるものをイメージしていたが、色々な種類
があり、最近はかわいいというイメージがあるのではないかと。そのような点
も伝えていきたい。

【水野(香)委員】 昨年度まで春日井市のシティプロモーション事業に携わっていた。ワーキ
ンググループとして定期的に会議を行ったほか、ママの文化祭というイベン
トで春日井市の魅力や観光について参加者から意見を聞いた。その中の意見
では、サボテンと書のまちというイメージを持たれているようだった。

書道は、子どもは学校で触れるが、大人が触れる機会がない。大人が触れ
ると口コミで広がる。水書道だと汚れないため、定期的なイベントなどがあ
れば広がっていくというアイデアも出た。

サボテンは、ひとつの場所でサボテンを見たり食べたりするような場がな
いと意見があった。また、他市の方々は春日井市に来訪しにくいという声
もあった。例えば、落合公園等で市民が参加してサボテンアートなどを展示
する機会や、食べる機会があれば市外からも来訪意欲が沸くのではないかと。

【佐藤会長】 春日井市の子育て環境はどうか。水書道とはどういったものか。

【事務局鈴木】 「子はかすがい、子育ては春日井」を標榜し、市の特徴としている。保育
園など未就学児の受入れ体制が整っており、また公園や医療機関が充実して
いる。生活の場として子育てしやすいところをPRしている。子ども医療費
の助成等も充実している。

水書道は、墨のように汚れる心配がなく、水を付けて専用の紙に字を書く
もの。乾けば繰り返し書けるものである。

【水野(香)委員】 市内施設で定期的にイベントがあると良いと思う。書の先生も春日井市は
たくさんいるので、指導してくれる方もいると良い。

【田本委員】 書道は道風記念館が力を入れており、社会人向けワークショップも開催し
ている。抽選になるほど人気で、レベルの高い方が集まっている印象だが、
一般の方も気軽にできるようになればと思う。子どもは学校で書に触れてお
り、文化フォーラムでは子供向けのワークショップも開催していることから、

子どもがいる世帯は書に触れる機会も多い。

若い人にサボテンを春日井の特産品と紹介すると興味を持ってくれる。サボテンのパンフレットを集めて提示したらアート系の方が興味を持ってくれた。一方で、インターネットで春日井サボテンを検索しても、団体や大学が個々で活動している情報が見つかって、まとめて紹介しているページがない。情報をまとめて取扱うプラットフォームがあると良い。

文化フォーラムは文化に関するものしか置けないとのことであった。

サボテンラーメンは食べたことあるが、高蔵寺は春日井駅や勝川駅と距離があるので繋がりが薄い。子どもは小学校の給食でサボテンきしめん、サボテンコロッケを食べている。サボテンを食べたいと思ったが、インターネットで買えない。買えると良いと思う。

ヒアリング調査対象に文化フォーラム春日井が入っていない。かすがい市民文化財団は春日井市と連携して、文化活動を進めている。2.5次元のアニメ舞台イベントの際には全国から若者が集まった。初年度は商店街の方々が何事かという状態であったが、翌年度はおもてなしに努めて来訪者との交流もあったという。インターネットですぐに広まり情報が共有された。連携は重要である。

春日井製菓（本社は名古屋）のような全国的な企業とのコラボがあると良い。

郵便局のポストにサボテンのイラストが貼ってあり、写真を撮って持っていくと窓口で特典をもらえるというイベントが開催されている。広報でサボテン絵本を作る取組も紹介されていたが、そういった情報を一か所で情報を取れるようなものがあると良いと思う。

【水谷委員】 春日井市は、実生サボテンという種からサボテンを発芽させるというのが日本一である。食べることの発祥は宮崎県である。サボテンは熱を加えると色が変わってしまう。海外からはパウダーで輸入している。今、サボテンの生産量が少なく食材としては高価なものになっている。スライスして鰹節と醤油でというのが一番サボテンらしさを味わえる。古いサボテンは苦く、新芽（10 cm程、2か月程のもの）は苦みが無くうまい。食材として浸透していくには時間がかかると思っている。

【佐藤会長】 「サボテンを食べられる」ということを上手にPRできると良い。

【水野(隆)委員】 観光に関する市民の意識は高いと認識している。観光コンベンション協会ですらネットプロモータースコア調査を行い、市民の自治に対する意識度を調査した結果である。しかし、自分が担い手になるかという部分のスコアは低い。

我々は、シティプロモーションを進めようと思っているが、シティプロモーションと観光が混同していると思っている。サボテンはコンベンション協会でも取組むが、サボテンを市民の関心を引くためのツールとして考えているが、観光はそうではない。立ち位置によっても変えていかないと議論が進まないと思う。

市民にとって使いやすい公共施設も市外の人には使いにくい。市内団体との連携も重要ある。

【岡部委員】 実質3回の会議でまとまるかは気になる。実際誰がやるのかということにも触れていかないといけない。経済団体も協力していきたい。春日井市は中途半端に豊かで危機感が少ない。観光は国の光を見るという原点があるため、将来に渡ってというところで考えていきたい。サボテンもずっと取組んでいるがなかなかうまくいかない。インターネットで検索できないということもきちんと対処していかないといけないと感じた。

【趙副会長】 大学では学生にビジネスプランを作らせている。常にビジネスがどこにあるかを考えている。学生にもそのように指導している。夏休みの学生の課題として春日井市の魅力はなにか、ビジネスをどう考えるかを課題として出した。一外国人としては、2つのキーワードが挙げられ、サボテンと書だと思った。書は中国起源のものだが、大きなビジネスチャンスがあると思っている。日本にも書のうまい子がたくさんいる。中国の高校と連携して個展や教室ができると良いと思う。海外の学校などと交流できると良い。子どもが来ると親が来る、ビジネスチャンスにもなるため具体的に今後考えていきたい。

サボテンは食べたことがない。中国人は食べないし、食べられると思っていない。食べられることを紹介できるのが切り口である。美容に関しては、手を挙げる中国人はたくさんいると思われビジネスチャンスはある。食べるというキーワードでもウリになる。文化の交流を含めてビジネスになると思っている。

【佐藤会長】 学生のスタートアップ授業にとっても興味がある。地域と一緒に作り上げるということで若い学生たちのアイデアに期待が持てる。

Webサイトの充実やサボテン食べ歩きできる場などがあると良いと思った。外国の人は漢字に興味を持っている。ハニワまつりもある。若い子の歴史好きにも着目して検討しても良いだろう。

本日は時間が少なかったが、次回はもう少し皆さんの意見も伺えるようにしたい。

【事務局鈴木】 次回は 12 月開催を予定しており、骨子案の提示に向けて引き続き検討を進めていきたい。

上記のとおり、令和3年度第1回春日井市観光・にぎわい創出推進会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席委員のうち1名が署名する。

令和3年9月2日

会 長 佐藤 久美

署名人 趙 偉